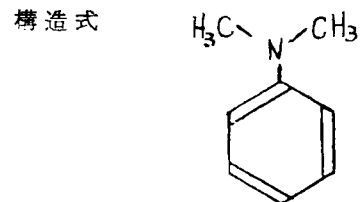


N, N-ジメチルアニリンの濃縮度試験成績報告書

1. 試験期間 昭和50年7月1日～昭和50年11月22日  
2. 試料名 N, N-ジメチルアニリン (試料No K-109)

分子式  $C_9H_{11}N$



3. 試験方法及び条件

環保業第5号  
薬発第615号 } 魚介類の体内における化学物質の濃縮度試験による  
49基局第392号

3.1 試験装置及び機器

水系環境調節装置 流水式  
ガスクロマトグラフ 検出器 FID

3.2 試験条件

3.2.1 T L m 試験

(a) 試験魚

ヒメダカ平均体重0.24g 塩化第二水銀検定合格魚<sup>※</sup>

※田端健二 用水と廃水14, 1297～1303(1972)

(b) 分散剤

使用せず

(c) 試験温度

25±2℃

(d) 結果

48 T L m 値 102 ppm

3.2.2 濃縮度試験

(a) 試験魚

コイ, 平均体重 約32g

平均体長 約11cm

(b) 試験温度

25±2℃

(c) 試験濃度

設定値

定量限界より設定した<sup>※</sup>

第1濃度区 0.5 ppm

第2濃度区 0.05 ppm

※ 5.1において補足説明する。

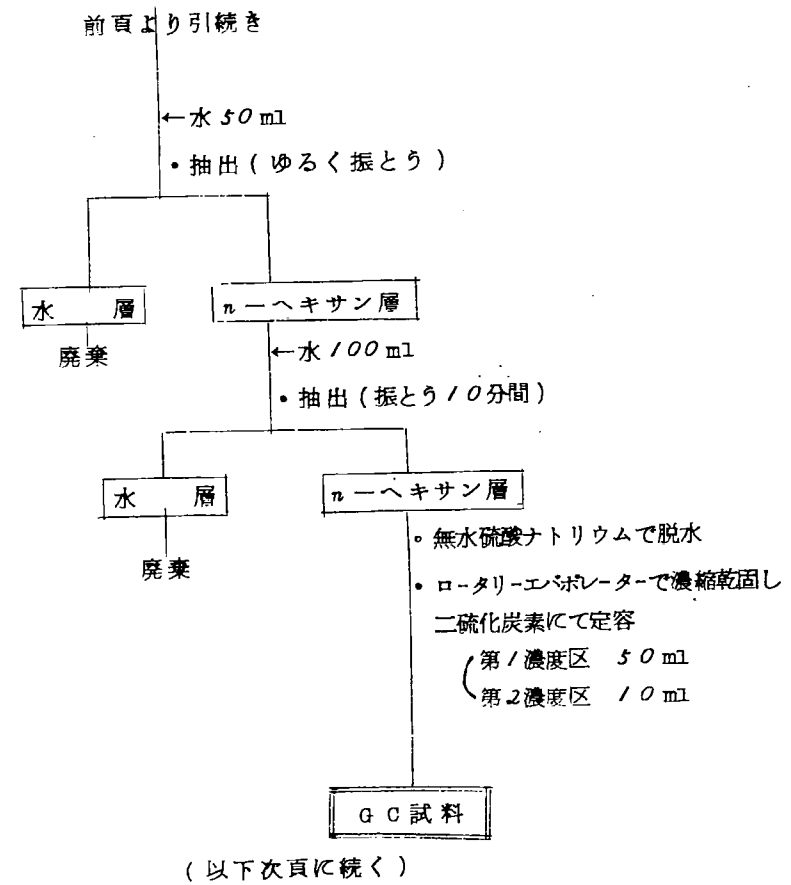
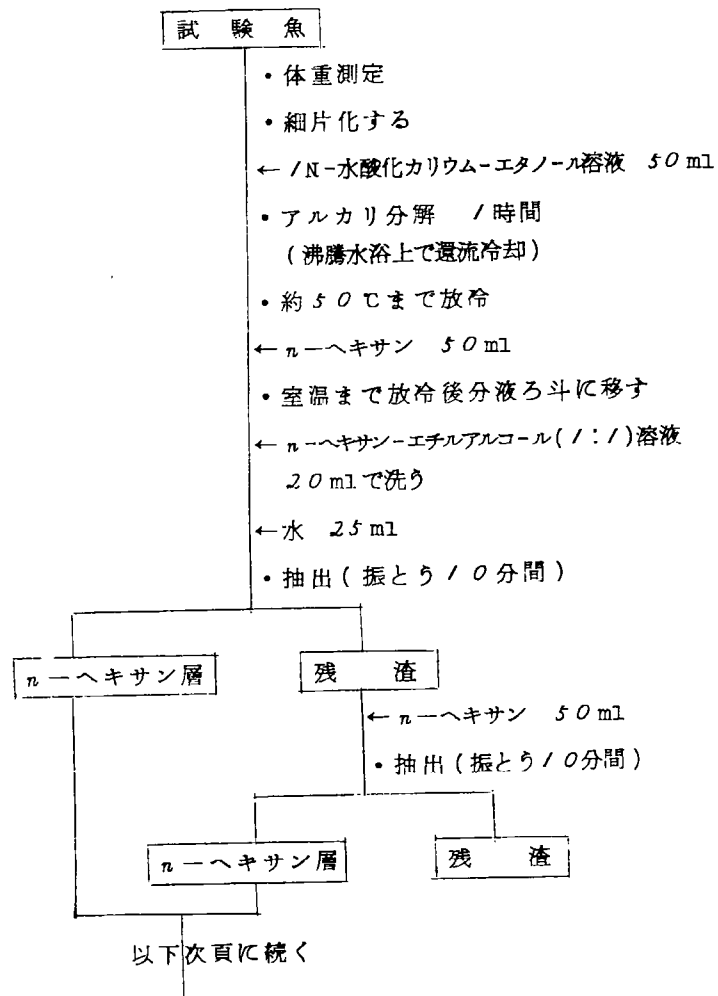
実測値

表一 / 濃縮倍率を求めるための平均濃度 (ppm)

	2 W	3 W	4 W	6 W
第1濃度区	0.418	0.411	0.405	0.374
第2濃度区	0.0392	0.0390	0.0379	0.0384

(以下次頁に続く)

### 3.2.3 分析試料の前処理



### 3.2.4 分析条件

ガスクロマトグラフ ( G C ) 検出器 F I D

キャリアガス  $N_2$

充てん剤 3%OV-17/クロモソルブW AW-DMCS

ガラスカラム 2mm $\phi$ ×2m

カラム温度 120℃

ただし水槽濃度の実測値は通常設定値の60%位に低下することが多いため安全度を考慮して次のように設定した。

$$0.03 \text{ ppm} \times 0.6 = 0.018 \text{ ppm}$$

第1濃度区はその10倍の0.18 ppmとした。

以 上

### 4 試験温度

表 ー 2 濃縮倍率

	2 W	3 W	4 W	6 W	付 図	付 表
第1濃度区	13.6	5.7	10.4	8.8	1, 3, 4, 5 6	3, 4, 6
	7.8	5.4	9.9	10.7		
第2濃度区	9.0	10.1	5.6	7.0	2, 3, 4, 5 6	3, 5, 6
	9.5	6.8	7.5	4.7		

### 5 そ の 他

#### 5.1 水槽濃度の設定について

機器の検出限界は0.1 ppm ( 図ー3参照 ) であり、第2濃度区の濃縮倍率が1倍程度であれば結果を求め得るよう考慮し次のように設定した。約30gの魚体重を分析に供する最終液量10ml ( 約10g相当 ) まで濃縮するため

$$0.1 \text{ ppm} \times \frac{10 \text{ g}}{30 \text{ g}} \times 1 \approx 0.03 \text{ ppm}$$